

講義名	中国語 A			授業形態	
担当教員	小笠原 恵子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業は、教科書に「中国語入門ルール66」を使用する。番号順に配置されたルールを一つ取得する度に、前進を実感して頂けると思う。苦手な項目にチェックを入れると、見直しも簡単かと思う。入門参考書として手元にあるとありがたい本もある。

各課のQRコードを読み込むと、その課の内容のリスニングが出来、音声資料は非常に使いやすく、正しい発音を沢山聴いて発音に強くなってほしい。

準備学修で、リスニングして予習・復習をして頂くため、随時、宿題を指定したり、小テストを行ったりする。

授業の時は、発音、文法をペア、もしくはグループワークで繰り返し勉強する。発音、文法と漢字の書き方が正しいか確認し、会話の練習を進め、暗記をする事を求める。

対面授業中は、コロナ感染症対策のため、全員で同時に大きい声を出して発音練習をすることは減るが、可能な範囲内で、一人一人に授業中で発音し、会話への自信を身に付けてもらいたいと思う。

到達目標

中国語の発音記号（ピンイン）を正しく流暢に読めるようになる。
単語の発音と基礎文型を暗記し正しい発音で言えるようになる。
字の書き方を正しく書き、基礎中国語の中国語・日本語の翻訳と通訳ができるようになる。
基礎会話ができるようになる。
単語力と文法力が付いてきて、自己紹介文が書け、自己紹介ができるようになる。

提出課題

提出課題 各課の音ページは、練習の問題を含む、筆記宿題と指定する。
提出は、指定の授業に出席し、授業の最初に提出する。出席しない時と後からの提出は認めない。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

宿題と練習問題、テストで学生の習得状況を確認し、間違いを指摘し、フィードバックする。

評価の基準

小テストと宿題で30%、中間試験30%、期末試験40%。
中間試験は、第6課終了後に、期末試験は第12課終了後に行う予定であるが、進度によって範囲の変更をする場合がある。
欠席が5回で失格となる。授業中に寝たり、お喋りしたり、携帯をいじったりして、授業態度が悪いと、最終成績で評価が低くなる。

履修にあたっての注意・助言他

三密を避け、座席指定にします。また、マスク着用や大声を出さない事、換気、消毒などに努め、安全を確保します。
準備学修でリスニングをしながら、音読みを頻りにやしてほしい。
授業中でメールをしないこと。遅刻は3回で1回の欠席とみなす。

教科書

.中国語 入門ルール66.	相原 茂 玄 宣博	朝日出版社	2640	978-4-255-45330-9C1087
---------------	-----------	-------	------	------------------------

参考図書

その他

授業計画

1	発音編 1～2課	声調、単母音・副母音・子音・
2	発音編 3～4課	鼻音・発音のつづり、その他
以下本編		
3	第1課	人物代詞、「は～です」の言い方、副詞
4	第2課	指示代詞、疑問文、反復疑問文
5	第3課	形容詞述語文、否定文と疑問文
6	第4課	助詞「の」について
7	第5課	前置詞「在」「で」
8	第6課	数の数え方、年月日、曜日の言い方、「几」「いくつ?」「呢」「～は、
9	中国試験 試験後第7課	物を数える、「有」「持つ」、「二」と「両」
10	第8課	「有」「在」「ある/いる」、「什么地方」、「哪儿」
11	第9課	二つの「怎么」「どうして」、「为什么」「怎么」「这么」と「那么」「こんな風に/あんな風に
12	第10課	連行の表し方、二つの「在」、前置詞、助動詞1
13	第11課	連動文、使役の表し方、譲語文
14	第12課	不、「と」「及」「2つの否定のしかた。二重目的語を取る動詞、様態補語
15	総復習	
	備考	

授業の進度はクラスの状況に合わせて適宜調整します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

自宅でリスニングをして宿題を書き、新しい知識を事前に理解しておくことが要求される。また、復習をしないと上達しないので、復習小テストを頻りに行うため、1週間に少なくとも4時間程度の予習と復習の準備学修が必要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的・社会的基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
